

# 今後の天候について

2014/11/7

株式会社ウェザーマップ

107-0052 東京都港区赤坂5-4-9 いちご赤坂五丁目ビル6F

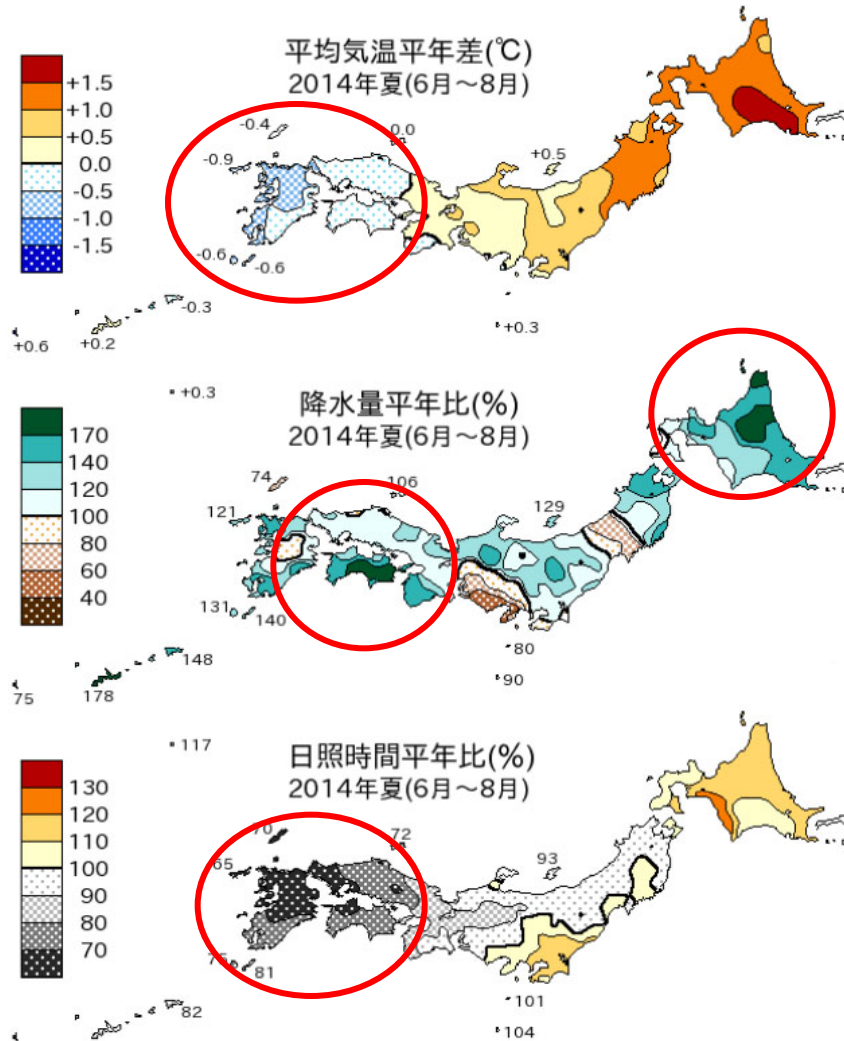
TEL:03-3224-1785/FAX:03-3224-1786

<http://www.weathermap.co.jp/>





# 今夏(6~8月)のまとめ

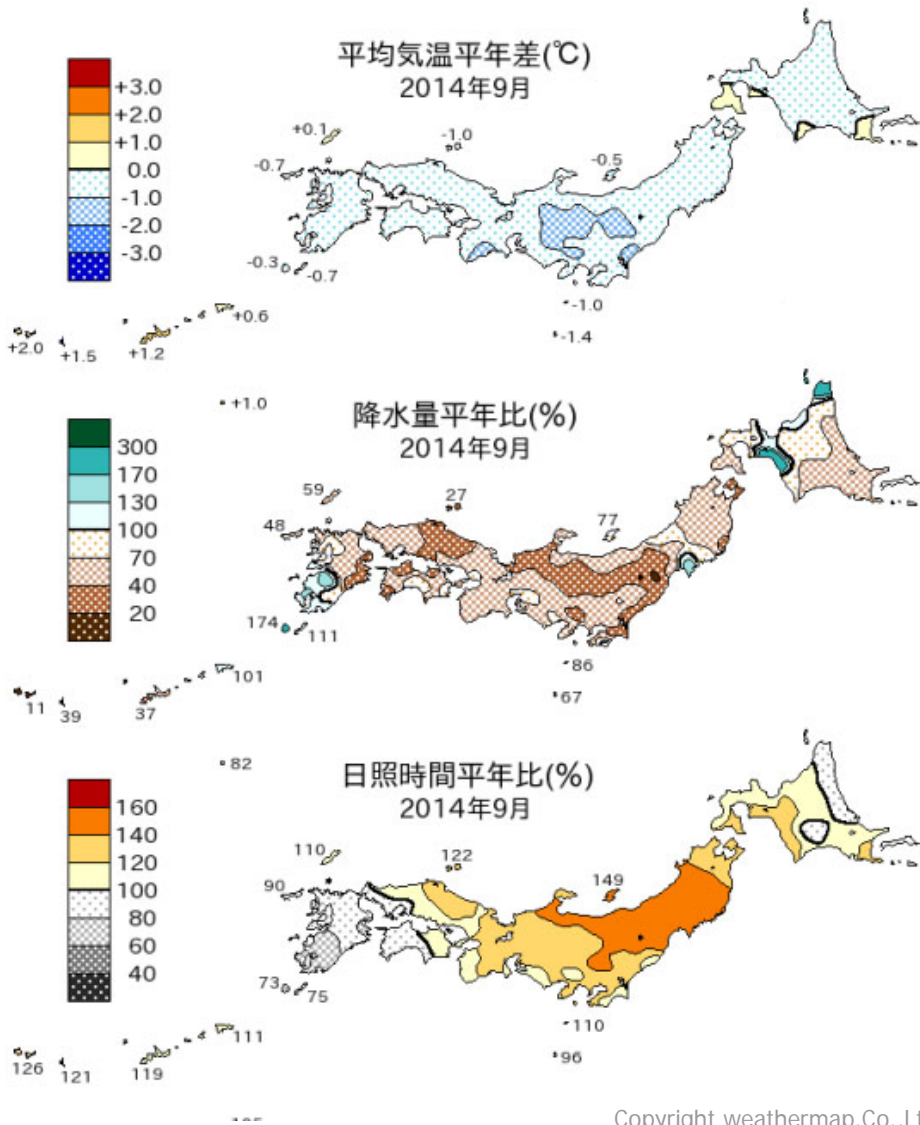


- 平均気温は、西日本では、2003年以来11年ぶりに低かった。一方、北日本、東日本では5年連続で高かった。
- 「平成26年8月豪雨」の影響で、降水量は北日本、西日本の太平洋側でかなり多くなった。
- 西日本の日照時間はかなり少なかった。





# 9月のまとめ



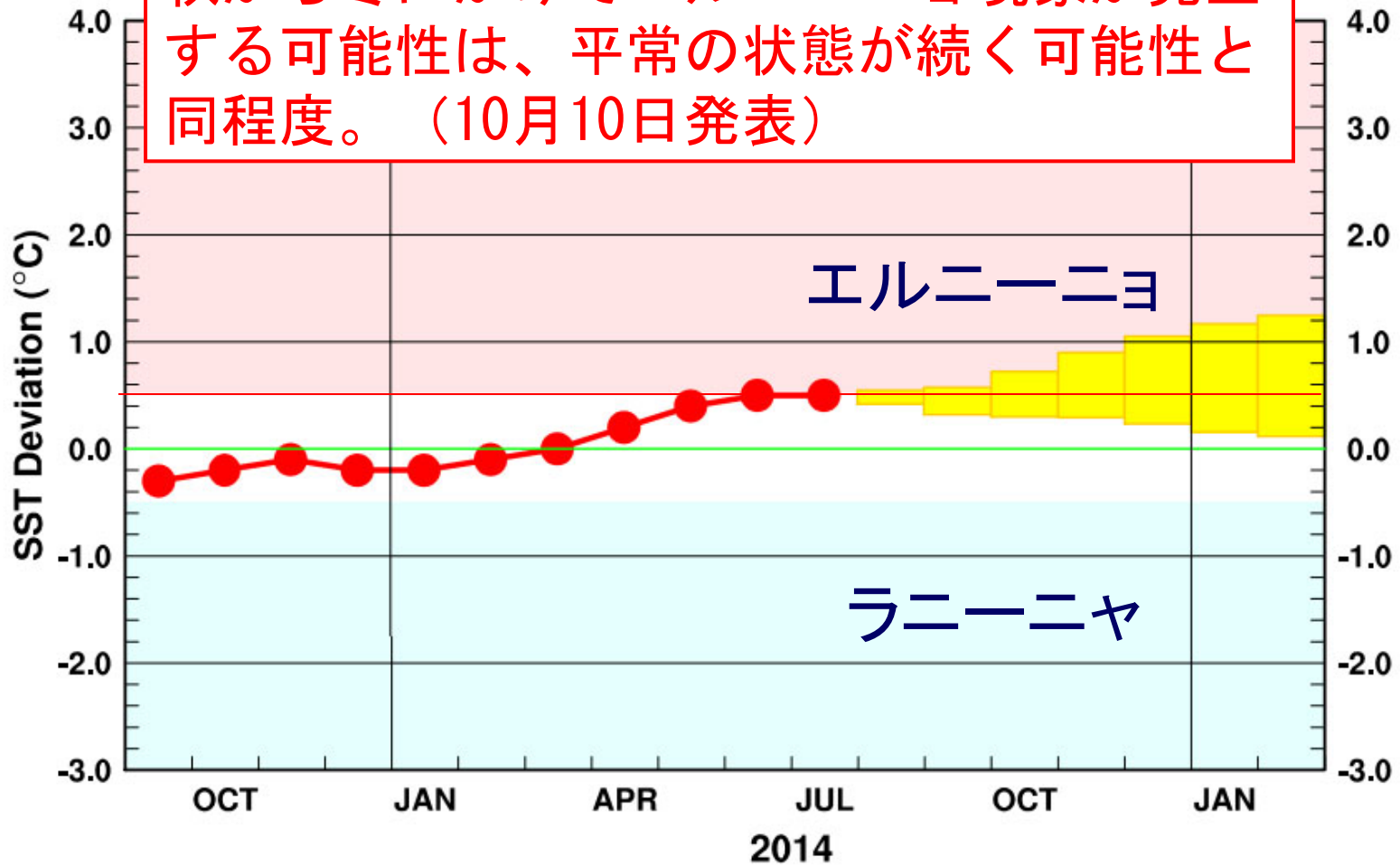
- 東日本で5年ぶり、西日本で8年ぶりの低温。
- 北海道で記録的大雨
- 全国的に少雨・多照の地方が多かった。





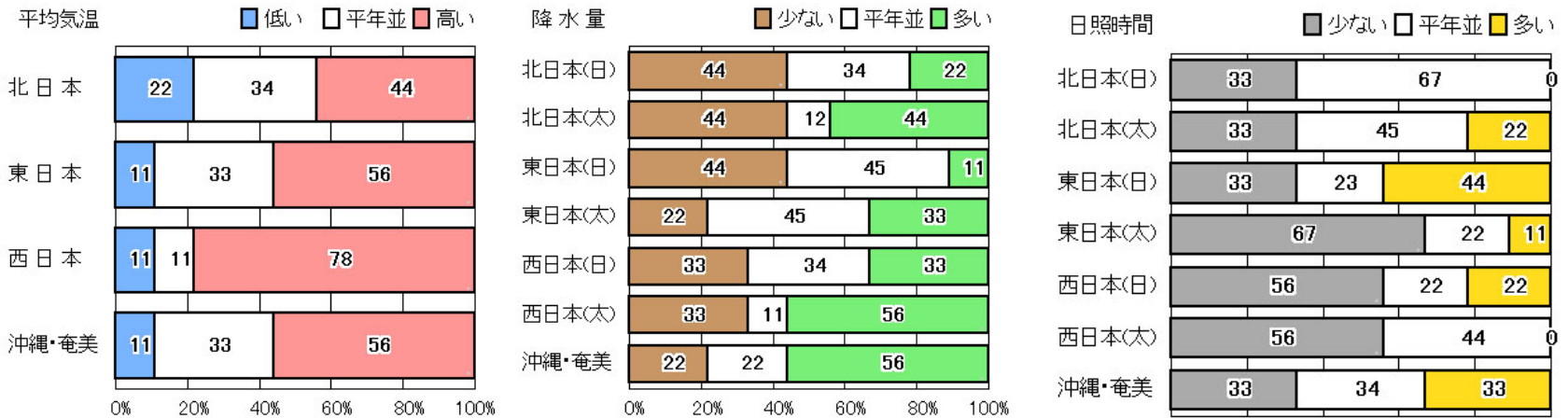
# エルニーニョ/ラニーニャ現象の経過と予測(5か月移動平均値)

秋から冬にかけてエルニーニョ現象が発生する可能性は、平常の状態が続く可能性と同程度。(10月10日発表)





# エルニーニョ現象発生時の11～1月の天候の特徴



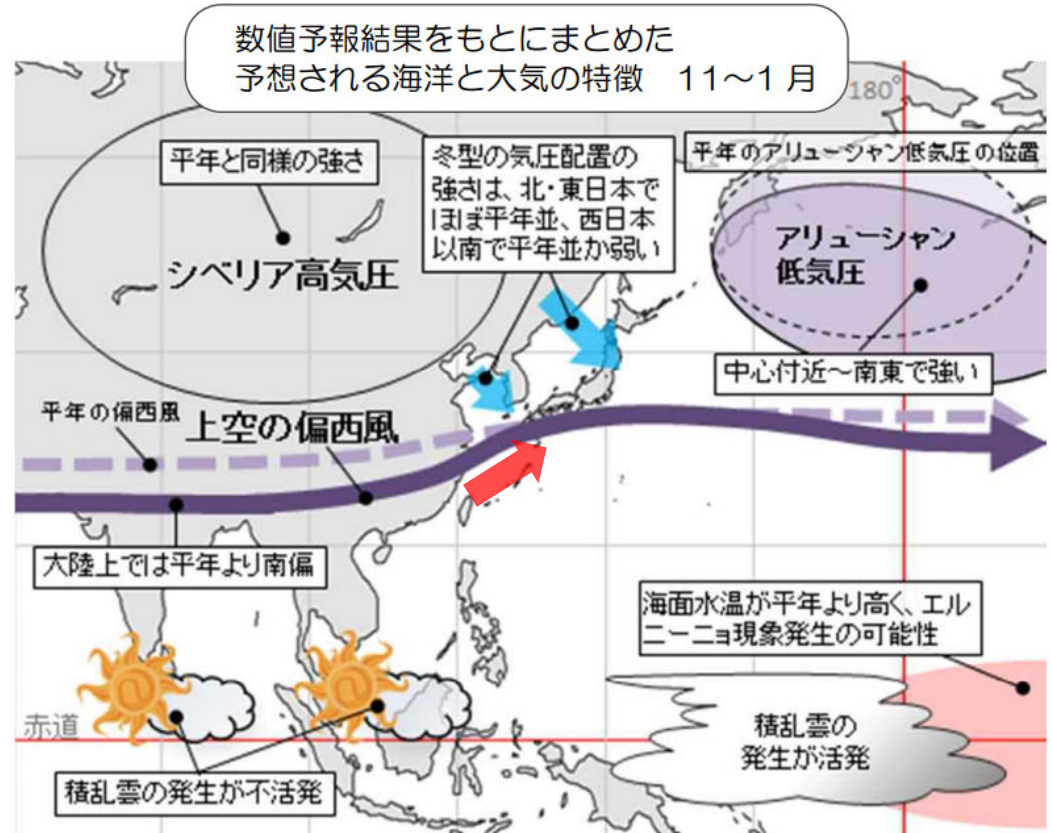
エルニーニョ現象発生時の11～1月の天候の特徴(気温、降水量、日照時間)  
統計期間:1979年3月～2009年2月。棒グラフ上の数字は出現率を示す。

- 平均気温は、全国で高い傾向。
- 降水量は、北日本日本海側と東日本日本海側で少ない傾向。
- 日照時間は、東日本太平洋側と西日本で少ない傾向。

# 海洋と大気の特徴(11~1月)

## 予想される海洋と大気の特徴

- 海面水温は、太平洋赤道域では日付変更線付近から東部にかけて平年より高く、エルニーニョ現象が発生する可能性があります。
- 太平洋熱帯域では、西部から日付変更線付近で、積乱雲の発生・発達が生発となる一方、インド洋からインドネシア付近では不活発となる見込みです。
- このため、偏西風は大陸上では平年より南を流れる一方、日本付近では南から北へ蛇行し、太平洋側を中心に湿った空気が流れ込みやすい見込みです。
- アリューシャン低気圧は、平年と比べ日本から遠い位置で強いため、冬型の気圧配置は、北・東日本でほぼ平年並、西日本以南で平年並か弱い見込みです。







# 11~1月の予報(平均気温)

	平均気温 11月	平均気温 12月	平均気温 1月
北日本	低 30 並 40 高 30% ほぼ平年並の見込み	低 30 並 40 高 30% ほぼ平年並の見込み	低 30 並 40 高 30% ほぼ平年並の見込み
東日本	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い見込み	低 30 並 30 高 40% ほぼ平年並の見込み	低 30 並 30 高 40% ほぼ平年並の見込み
西日本	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い見込み
沖縄・奄美	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い見込み

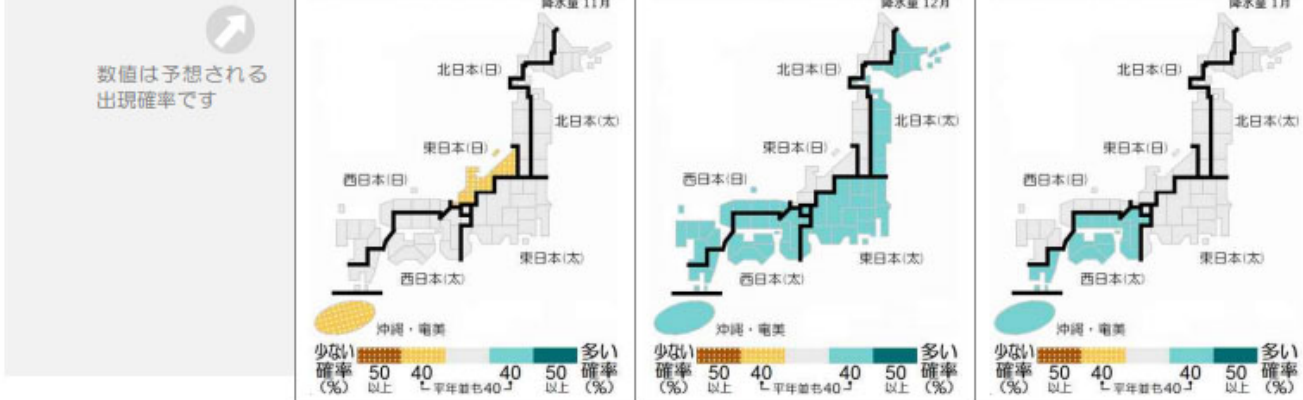
↑

数値は予想される  
出現確率です



# 11~1月の予報(降水量)

		降水量 11月	降水量 12月	降水量 1月
北日本	日本海側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み
東日本	日本海側	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み
西日本	日本海側	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み
沖縄・奄美		少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み







# 近年の冬の特徴

## 最近 10 年間の冬の特徴

年	冬の平均気温 平年差℃ (階級)				冬の天候の特徴
	北日本	東日本	西日本	沖縄・奄美	
2004/'05	0.0 (0)	0.4 (0)	0.3 (0)	0.4 (+)	低気圧が頻繁に通過 年末以降時々寒気
2005/'06	-0.8 (-)	-1.0 (-)	-0.8 (-)	0.0 (0)	“平成 18 年豪雪” 12 月から 1 月上旬にかけて強い冬型
2006/'07	1.4 (++)	1.5 (++)	1.4 (++)	0.9 (+)	記録的暖冬 冬型現れにくく、南岸低発達しながら北上
2007/'08	-0.3 (0)	-0.2 (-)	0.1 (0)	0.3 (+)	冬型一時的で南岸低多い 気温の変動大
2008/'09	1.4 (++)	1.3 (++)	0.9 (+)	0.8 (+)	冬型の気圧配置となる日が少なく、全国高温
2009/'10	0.4 (0)	0.6 (+)	0.7 (+)	0.4 (+)	全国で気温の変動大 北陸中心に大雪の時期が3回
2010/'11	0.6 (+)	0.2 (0)	-0.4 (-)	-0.8 (-)	12 月末～1 月末日本海側で大雪、低温
2011/'12	-1.3 (-)	-0.9 (-)	-0.7 (-)	0.0 (0)	冬型多く、北～西日本は3 か月連続低温 最近 10 年間では“平成 18 年豪雪”に次ぐ積雪
2012/'13	-1.2 (-)	-0.9 (-)	-0.7 (-)	0.4 (+)	北・東・西日本で低温 北日本日本海側を中心に多雪
2013/'14	0.2 (0)	-0.2 (-)	-0.1 (0)	-0.3 (-)	東日本、沖縄・奄美で低温 2 月に関東甲信で記録的大雪 日本海側の平地は少雪

「2004/'05」は 2004 年 12 月～2005 年 2 月のことです

階級 --: かなり低い -: 低い 0: 平年並 +: 高い ++: かなり高い



# 冬の降雪量(日本海側)

年	冬の降雪量 平年比% (階級)				
	北海道日本海側	東北日本海側	北陸	近畿日本海側	山陰
2004/'05	108 (+)	110 (+)	91 (0)	89 (0)	80 (0)
2005/'06	105 (+)	111 (+)	100 (0)	142 (+)	121 (+)
2006/'07	72 (--)	33 (--)	10 (--)	15 (--)	24 (--)
2007/'08	86 (--)	78 (-)	53 (-)	65 (-)	66 (-)
2008/'09	90 (-)	66 (--)	37 (--)	50 (-)	65 (-)
2009/'10	95 (-)	79 (-)	91 (0)	41 (--)	43 (--)
2010/'11	93 (-)	93 (0)	95 (0)	93 (0)	174 (+)
2011/'12	98 (0)	102 (0)	115 (+)	136 (+)	158 (+)
2012/'13	100 (0)	112 (+)	82 (0)	85 (0)	64 (-)
2013/'14	80 (--)	77 (-)	34 (--)	46 (-)	58 (-)

「2004/'05」は2004年12月～2005年2月のことです

階級 --:かなり低い -:低い 0:平年並 +:高い ++:かなり高い



# まとめ

- 秋から冬にかけてエルニーニョ現象が発生する可能性は、平常の状態が続く可能性と同程度である。⇒太平洋赤道域での積乱雲の発生・発達域が西寄りであることの方が天候に影響。
- アリューシャン低気圧は中心から南東側で強く、北・東日本付近への寒気の南下はほぼ平年程度の見込み。⇒日本海側の大雪の可能性低い。
- 偏西風は、日本付近でやや北に蛇行するため、西日本と沖縄・奄美への寒気南下は平年程度か平年より弱い見込み。⇒西日本を中心に暖冬傾向。太平洋側で大雪の可能性も。